

## 平成24年度第3回山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会議事録

日時：平成25年3月28日（木）

会場：霞城セントラル23階高度情報会議室

### 【貝山委員長】

これから議事に入りたいと思います。当初2回の懇談会というお話をいただいておりますが、大変議論が活発に行われて、第2回で全ての委員にご発言いただけなかったため、今日は前回ご発言いただかなかった委員の方には是非ご発言をいただきたいと思っております。

先ほど知事からのお話にもありましたとおり、第1回目は文化機能関係を中心にお話をいたしました。2回目は、それに併せて何か山形らしさを出すような、あるいは、現在こういう施設に求められている付加的な機能はどういうものか、ということをごそれぞれ専門的な立場からお話をいただきました。まさに朽ち果てようとしている県民会館を会場として、その実態を目の当たりにしながら、新しい県民会館を作るとしたらどういふものになるか、そのイメージを作っていたいただいたような気がします。今日は正に西口の県有地の真横にあります霞城セントラルで、県有地もよく見え、こちらの方、お城の門の前の土地も良く見えるところでございます。今日は天気が良くて、景色は良く見えるのですけれども、議論に集中していただければと思っております。

それでは事務局の方から資料についてご説明いただきたいと思っております。

### 【事務局】

県民文化課の今野と申します。お手元の資料に基づいて説明させていただきます。

資料1は第1回目の有識者懇談会の主要意見で、分野別の視点からまとめたものですが、前回の懇談会で一度説明しておりますので割愛させていただきます。

続きまして資料2をご覧くださいと思います。前回の懇談会の主要意見を7つの視点でまとめています。まず文化施設関係の意見ということで、主なものを紹介申し上げますと、国内の一般的なレベルの内容、これは席数とか機能ということですが、その一般的なレベル、内容を確保して欲しい。それから、オペラハウスのよりは様々なものに活用していける多目的なホールが望ましいのではないかとといった意見もございました。

それから、外から見えるような練習室の提案がございましたけれども、カーテンで閉められる場所があっても良いのではないかと意見もございました。それから、楽屋を会議室で使う、あるいはホワイエを展示場で使う、等、利用率を上げて経営面のことを考えることも必要ではないかとといった、様々な意見を頂戴してございます。

それから、賑わい創出関係のご意見を頂戴してございます。飲食店につきまして、若い人たちがチャレンジできるそういった場にできないか、それから、駅西には観光客もいらっしゃるの、6次加工品の市場調査ができる機能があっても良いのではないかと。それから、新しい何か生まれてくるきっかけの場、良い意味でのたまり場、そういったものがないのではないかとのご意見もございました。

それから、文化施設だけではなく、物産市も開けるようなイベント広場を作ってほしい等、様々なご意見を頂戴してございます。

それから、再生可能エネルギーの活用ですけれども、地域熱供給施設が既に配管していますので、そういったインフラを最大限活用できるのではないかと等、ご覧のようなご

意見をいただいております。

防災・減災機能の関係では、防災に特化した機能が一部は必要かもしれないが、普段から使っているもの、それを災害時に転用するという考え方が大事ではないかのご指摘もいただいております。

周辺施設との連携に関する意見では、霞城セントラルと、新しい拠点施設と、山形テルサを総合的に有機的に結びつけることによって、独自性優位性を発揮できるのではないかと、そのほかご覧のようなご意見を頂戴しております。

次の項目では、現在の県民会館、それから土地の利活用に関しては、現県民会館の位置に文化の核は残すべき、というご意見でございました。

それから、県民会館の後継施設以外の施設に関する意見では、山形駅西にサッカー場を整備してはどうか、等、ご覧のような意見を頂戴したところです。

資料3ですが、前回と全く同じ資料を提示してございます。本日の議論の参考ということでご覧いただきたいと思っております。

#### 【貝山委員長】

もう1つ、伊東委員の方から資料が提出されておりますが、これにつきまして伊東委員からご説明をしていただければと思います。

#### 【伊東委員】

前回もお話させていただきましたさくらホール、岩手県北上市にあります公立文化施設です。そこは大中小3つのホールがございまして、特色がありますのは、アートファクトリーという機能です。全部で21の部屋があります。それぞれが小さい練習室であったり会議室であったりですけれども、この写真をご覧いただいておりますとおわかりいただくとおり、ほとんどの部屋がガラス張りになっている。これらの部屋がウッドデッキのスペースに、東屋的に点在しておりますので、ウッドデッキに置かれた椅子、テーブルにいる人たちが中を覗けるということで、これが一つの客寄せになっていることをご紹介させていただくものです。先ほどそのさくらホールの理事会がございまして、昨年度の実績をいただいてまいりましたけれども、ホールの稼働率はもちろん高いんですけれども、それぞれのスペースがほとんど100パーセントに近い、部屋によっては毎日必ず使われているといった状況ですので、ホールというのは公演のない日をどうするかということが非常に大きな問題になるのですが、さくらホールの場合には常に人が集まっている、特にこういう場所では若者達のロックバンドですとか、最近はダンスですよ、学校教育の中に取り入れられていますけれども、そういった練習をしている若者達が集まる居場所になっているということです。

サービス課の課長さんにお話を伺ったところでも、非常にさくらホールの場合はこの施設を作ったことがメリットになっているとのことであり、前回もお話しました「中が覗ける」ということ、統計はとっていないそうですけれども、6～7割くらいの人たちが中が覗けるような状態でお使いいただいているということです。

前回の説明の補足資料ということでつけさせていただきました。

#### 【貝山委員長】

事務局の説明それから伊東委員からの説明がありました。これを踏まえて、今年度最後の懇談会となりますので、是非皆様から活発なご意見、ご発言をお寄せいただければと思います。

どなたでも結構ですが、前回確か藤野先生は所用のため途中で退席されたかと思っておりますが、何か言い足りなかったことがあると思っておりますので、どうぞ。

## 【藤野委員】

それでは、ちょっと所用があり前回途中で失礼いたしました。退室する前に古内さんのモンテの本拠地構想の話が出た時は、この会議が西口の新しい文化施設ということが私の念頭にはありましたので、もう一回ゼロから見直したらどうだということに対して、びっくりして考えもまとまらなかったのですけれども、その後新聞報道等もあり、逆にゆっくり、本当にどういう施設がいいんだろうか考えました。

私の結論から言いますと、西口にはやはり文化施設が良いのだらうと思います。現在そこにある山形テルサという既存の施設も活かした調和のとれたまちづくりが一番現実的だと思います。

ここからそれるのですけれども、是非聞いていただきたいことがございます。3月17日に、50周年を迎えた県民会館で、交響讃歌「やまがた」というプログラムで、山形交響楽団とともに、地域の合唱団、たくさんの方々が参加して演奏会が行われました。合唱、オーケストラ、独唱、尺八、ホラ貝などバラエティに富んだ方々の演奏ですが、この交響讃歌「やまがた」は、県民会館が25周年を迎える時に作られた曲です。私は幸運にも2回とも独唱で1曲参加させていただいたので、その25年前の感激から今回また歌わせていただいて、思うところがございましたので、ちょっとお話をさせていただきます。

この交響讃歌というのは、6つの部分からなります。序曲から始まって、山形の四季、春、夏、秋、冬、4つ歌って最後が「希望の章」という構成になっています。作詞は山形在住の5人の方々が担当されていて、山形出身の佐藤敏直さんが作曲されておられるんです。最後の「希望の章」の題名が「アルカディアやまがた」という曲です。だいたい昭さんの作詞によるものですが、ちょっと読ませていただきます。「奥羽の稜線 連なる山河 恵みもたらず 豊かな自然 われらの古里は アルカディア みどりの樹海に はぐくむ生命 守れやまがた 調和の世紀 海へひとすじ 流れを集め 大地潤す 母なる川よ われらの古里は アルカディア 文化の泉を 絶やさぬために 築けやまがた 希望の世紀 集うべにばな 奏でる賛歌 燃やせ青春 あふれる若さ われらの古里は アルカディア 平和の誓いを 世界の友と 結べやまがた 理想の世紀」。こういう詩でございまして、これが佐藤敏直さんの素晴らしい作曲にのせられて、大合唱でエンディングを迎える。私はこの部分には参加していなくて、舞台の外で聞いていたのですけれども、大人の混声合唱と子どもたち、それから山形交響楽団とともに大きなスケールで、山形の郷土愛、自然の美しさ、素晴らしさを歌っていたと思います。この中に「調和の世紀」あるいは「文化の泉」などいろいろなキーワードがありました。そして吉村知事が3月26日に県勢懇話会の中で示された、平成25年度の県政運営に関して、山形らしい成長を実現していくという決意の中に、こういう言葉がございまして。「自然と文明が調和した理想郷やまがた」、おそらくこの理想郷というのは、イザベラバードが思わず漏らしたアルカディアであると、ユートピアという言葉もありますけれども、やはりこの理想郷やまがたというのは当時置賜盆地を眺めた言葉ですが、これを吉村知事は山形県全体に理想郷という大きなイメージでとらえられていると私は思っております。

それで、この山形らしさ、調和のとれたまちづくりということを考える時に、先ほども申しましたとおり、駅西、あるいは山形市内、山形県を考えた時に、山形駅という県の首都の駅前をどういうまちづくりが本当に調和のとれたまちづくりといえるのか、と考えた時に、2001年にできた山形テルサという中規模のホール、そこにもう1つ、音楽ホールも兼ね備えた文化施設ができるというのが調和がとれているのではないかと。こういう構想がベストではないかと私は思います。

個人的なことを言えば、モンテディオのファンでして、J 1時代に天童の運動公園に足を運んで応援したので、自分が行くと勝利するんだと勝手に信じて、とても感動した覚えがありますけれども。スポーツも、芸術も我々人間が生きていくためには絶対に必要なものだとは思います。それで、例えばモンテディオの応援メッセージは山形交響楽団も発信しているわけですね。演奏会のチラシにもありますし、モンテのユニフォームを着て指揮をしたりということが私は記憶にあります。モンテディオ、あるいはサッカー、スポーツというのが一番良い形でこれから発展していくためにはどうしたら良いのかということを見ると、今の西口ではちょっと手狭ではないかという感想を私は持っています。それからもう1つ付け加えるのであれば、昨日発表になった人口の推移で、2040年には山形の人口が随分落ち込むということが、これは日本全国のことですけれども、東北の青森、秋田、山形が、そういうことも考えるとですね、子育て支援、次世代の子どもたちのために、にぎわい創出とありましたけれども、付加価値を文化施設に加えていただければいいのかなと思います。

#### 【貝山委員長】

次いでご発言、どなたかございませんか。もしいなければ、前回ご発言できなかった5名の方、順番にご指名させていただきます。安堵委員、お願いします。桜井委員、高橋委員、金委員、山口委員と続きます。

#### 【安堵委員】

私も、文化施設が良いと思っております。1回目の時にお話ししたこととかぶるのですけれども、山形を素通りしてしまう完成度の高い文化系の公演などを見る機会がないので、また、やるとなると規模を縮小した形の舞台作品になってしまうので、そういうものを見ると、また見ようという気も薄くなると思うのです。私はバレエで、舞台芸術というのは総合芸術で、劇場は作品の一部というとらえ方をしており、場所がどこでも良いわけではない。良いものを提供していきたいという気持ちもあります。大人が興味を持って見たいと思うようなものやることによって、子どもたちも興味を持つのだと思うのです。子どもたちが価値観が変わっていったり、世界観が変わるといふ、心の部分で豊かになることが私は重要だと思っております。

ここ数年の話ですけれど、トップアスリート、スポーツ選手の方も、音楽の、音階によってどこの筋肉が動くのかとか、匂いを嗅ぐとどこの関節が動くのかとか、五感を活かして、脳の方を刺激することによって、身体的パフォーマンスを上げるという訓練もされています。ですから、やはり芸術とか良いものを鑑賞するということは、子どもたちの身体能力を上げていくことにもすごく良いことだと思っています。

他にも山形で文化的な活動をしている小さな団体というのはたくさんあって、あまりの文化施設の恵まれなさ加減に麻痺をしまっているところもあるので、良いところがあれば、もっと活動するエネルギーとか、目標を持っていけると思うので、私は県民にとって文化施設というのは当たり前前の生活のために必要だと思っています。

#### 【貝山委員長】

では桜井委員、よろしくお願いします。

#### 【桜井委員】

前回の会議の時は仕事の都合で参加できず大変申し訳ございませんでした。すごく活発な意見が出されたというのを資料を見させていただいて感じました。私は第1回目の会議でも申し上げましたけれども、もともと文化施設を西口に作るという考えでしか参

加しておりませんでしたので、そのことについてお話をさせていただきました。私の意見といたしましては、障害者の方、子どもたち、たくさん多くの方が文化施設をお使いになると思いますけれども、そういった方たち誰でもが温かい雰囲気の中で使用できる施設というものを作っていただきたいという思いで参加させていただいております。個人鑑賞室など、落ちついて鑑賞できる部屋があるといいと思っております。先ほど子育て支援としての付加価値ですとか、子どもに与える影響は大人がまず作っていくとかというお話がありましたけれども、本当にそこが大切なところなのではないかと思っております。

**【貝山委員長】**

続いて高橋委員、よろしく申し上げます。

**【高橋委員】**

私は農業をやっているのですけれども、県民の1人として感じることは、文化に触れる機会、バレエですとか、オペラですとか、合唱に触れる機会が意外と遠いものを感じているという実感がありまして、なぜそうなるかという、身近に触れてこなかったからということがあると思います。教育に力を入れる、子どもたちの未来のためと思うのと、これから山形がやっていくことは、子どもの教育に力を入れるということがあると思うのですけれども、それはとても豊かなことだと思います。触れる機会がないというのは非常に不幸なことなので、気軽にリハーサルからとか、サークル活動が活発に営まれることから始まるのではないかと思うので、リハーサル室がたくさんある北上のホールみたいなものがあればとても賑わう場所になるのではないかと思います。宮城の青少年ホールという小さなホールに行ったことがあるのですけれども、サークル活動の募集のチラシがものすごく沢山掲示板に貼ってあって、50枚はあったと思うんですけれども、そのホールの外側は無料で使えるということで、学生がストリートダンスの練習をしていたり、おばあちゃんが詩吟の練習に来ていたりとか、世代を超えて集まることができる、交流、ふれあい、温かみがあって良い場所になるのではないかと感じています。練習する人が集まることになれば、食べたいとか、お茶を飲みたいとかということが生まれてくると思いますし、どういう方が利用するというのに合わせた、ターゲットと言いますか、どういう人が来るのかに合わせたカフェなり、レストランというのを考えていくべきかなと感じています。そうすることでリピートしていくと。

もう1つは、第1回でも言わせていただいたんですけれども、駅から直結で行ける場所ですので、新幹線の待ち時間にちょっと行って、山形の良いものを全部見て来られる、食べて来られるという場所であつたら素敵だと思っております。

**【貝山委員長】**

金委員、よろしく申し上げます。

**【金委員】**

舟形町より金です。3回この会に参加させていただいて、感じたことを少しだけ考えてきました。最初私は反対のような意見を言わせていただいたのですが、この会に出席して皆様の意見をお聞きして、更には現在の県民会館の見学をさせていただいた上で、やはり新しい県民会館が必要なんじゃないかと思いました。最初県の方が莫大な資料を持ってきていただいて、新しい県民会館が必要です、と言われたときに、一回ストップしたものを何故今なんだと正直思ったところでした。でもきっと、県民の皆様はたぶん私と同じ意見だったと思うんですね。でも現状を見て、できないことがたくさんあるこの今を見て、やっぱり必要なんだなと思うと思うので、県の方が、例えば舞台裏見学会

とかを行って、今県民会館がどういう状態なのかをもっと説明していただければ、県民はわかりやすいのではないかと思います。

新しい県民会館の話になりますが、今まで皆さんが議論してきたように、公演やコンサートが無い時の、賑わいの創出というのが最大の課題だと思うんですね。私自身が、どんな県民会館だったら行きたくなるのかと考えました。たぶん私は建物がものすごく面白かったら来ると思うんですね。単純かと思うのですが、あの建物に入ってみたいというわくわく感を刺激するような、ちょっと一風変わった形状の建物だったら行ってみたいかなと思ったんですよ。国内だったら、私まだ行っていませんが、青森県立美術館とか、香川県のベネッセハウスとか、国外だったらシドニーのオペラハウスとか、やっぱり建物が面白いと行きたくなる、集まりたくなると思うんですね。それはやっぱり現代建築として面白いものがないんじゃないかと思ったので、時間がないとは思いますが、コンペ形式など新しい形式で外観を考えるのもひとつの手なんじゃないかと思っています。

私も子供がいるのですが、広い世代に開けた県民会館とするのだったら、子育て世代の私たち、時間が少し迫っているのですが、積極的にいける場所として、たとえば、今山形で話題の高い荒井良二さんなんかの監修でキッズスペースを作っていたりとか、絵本広場とか、商業ベースばかりではない、子どもたちが集まれるようなスペースがあれば、子供を連れて行って告知のポスターを見たら、次こういう催しがあるんだ、じゃあ今度来て見ようかと、親子同士の会話が生まれると思うんです。そういう場であつたらいいと思っています。

私のような郡部の人間というのは、どうしても県民会館は遠いんです。距離的にもそうなんですが、距離が遠いほど気持ちも遠くなってしまいうんです。ですので、県民がために足が向くようなところであってほしいと思いますので、山形県4地区それぞれの日を決めていただいて、たとえば第3日曜日は最上の日だとか、そういうふうにソフト面を作ってください。で、その地域が、その日は、施設使用料が割引ですとか、山形市近郊以外の人も気軽に来れるような仕組みを作ってください。たとえばレストランとか、ショップとかと連動させて、最上地方デーを作ったりとか、シャトルバスとか走らせたなら県民会館がすごく身近な存在になるんじゃないかと考えました。

いずれにせよ、50年後も100年後も山形県民が誇りに思うような建物を是非作っていただければと思います。

#### 【貝山委員長】

それでは山口委員、よろしく願いいたします。

#### 【山口委員】

金委員に全て話していただいたような感じですが、個人的に私が県民会館を利用したというのは、子供の吹奏楽の県大会の時、初めて行ってみました。まず、楽器の搬入搬出がとても大変そうで、見る側聞く側としても少し窮屈な大会だったことを覚えています。

7月の大会は必ず県民会館なのですが、1月のアンサンブルコンテストは酒田の希望ホールなんですね。置賜から1月に毎年希望ホールに行くには、月山越えをしなければいけなくて、とても大変で不自由な思いをしています。それがもしこの山形で開催していただけるなら、本当に置賜の者としてはありがたいと思います。

それに式典なんなのですが、こちらの西の方にある高校に以前関わっていて、記念式典の時に、県民会館でやらせていただいたのですが、その時も、袖が出せないで、ファッションショーとしてはあまりにも不自由な会場でした。秋に、毎年この下

の場所でもファッションショーをさせていただくんですけれども、高校生が発表する場があるというのはとても有難いことで、しかもこの近くの高校ですので、こちらの方に通えるようになるというか、そういうふうにご利用させていただくのは、高校生にとってもタレントでも有難いことなんじゃないかと思っています。会場としてはいろんな使い方があると思うので、ホールがファッションショーのようなものにも利用できることも有難いと思っています。

それから、今日来た時に拝見させていただいたんですけれども、とても良い場所で、本当にこのままにしておくのはもったいなさすぎると思いました。早く魅力的な建物が建つならば、山形の新しい顔となってくれるのではないかと期待しています。

最後に、第1回目と第2回目でいろんな意見が出まして、とてもそれぞれ素晴らしい魅力的なご意見だったのですけれども、それを全部詰め込むとなると流石に無理があるのではないかとも思ひまして、観光やら産業の紹介、パネル展示とかといったご意見もあったんですけれども、そういったものはこの霞城セントラルにお任せして、もう少し絞り込んで、レストランもたくさん出せば良いという問題でもないかなと思いますので、こちらにも魅力的なレストランはたくさんあるだろうし、配分をいろいろ考えながら。文化の発表のようなことも、どの位までそこで出すのかというところももう少し考えていった方が良いのではないかと思いました。

#### 【貝山委員長】

大変良い意見をいただきました。後で私どもの方でまとめる機会があればまとめたいと思いますけれども、今の段階で非常に良いことを言っていておりまして、テルサと、この霞城セントラルと、これから出来る新しい施設ですね、有機的に結合していかななくてはいけないということ、たとえばショップがお互いにあると、競争しあっていると、どちらかが廃れていくと、そういう関係は作ってはいけないんだということ、今非常に大切なことをおっしゃっていただいたと思います。それで、テルサと今度新しくできるホール、同じような2つが出来るという話も私の耳に入ってくるんですけども、それはきちんと説明しておかなくてはならない。800人しか入らないところと、2,000人規模でやれるところと、おのずとやるイベントの中身が違うわけですから、これはまさに補完機能を持たせなくちゃいけない。競合する機能じゃなくて補完機能を持たせると。そうすると西口の広場、その周辺を一体的に開発をしていくということで、それぞれが生きていくような関係を作っていく必要があるのではと思いました。

サッカードームの話が急にわきあがってきましたし、私なりに藤野先生のように少しは考えたつもりなのですが、この山形のまち、駅周辺を上野のようにしていくのか、それとも後樂園のような街にしていくのか、そのせめぎあいなんだろうなということなんですよね。山形らしさを出す時に、どちらが良いのかと、どちらも必要なことは私も承知しております。モンテディオも育てていかななくてはならないし、強くなってもらいたいし、強くなってJ1に復帰したら、それなりの施設が必要になってくると思うんですけれども。ただ、同時に2つというのはとても無理な話なので、ましてや駅西に限定して、どういう施設整備をしていったらということになると、私の好みから言えば、やはり上野のまちにさせていただきたいと思います。

それで、美術館は大手門のところにありますけれども、こちらの表通りでつないでいくと、非常に分断されたように思うんです。だけど、お城の中から一つの動線として使っていきますと、実は美術館とここがお城をはさんでつながるんです。お城は上野公園だと思っていただければ。そうすると、この西口のスペースが全部つながっていくと。そうするとお城の中、これからいろいろ整備されると思いますけれども、常にそういうことを念頭に入れて、駅と、美術館、最上義光記念館、どうやって結んでいくのかと、

そういうことを頭に入れながらやっていくといいのかなと、そういうことを思いました。更にご発言いただきたいんですけども、古内さんいかがですか。

#### 【古内委員】

風邪をひいているので声がちょっと違うと思いますが、私は県民会館が反対だという意見ではないのです。私、山形フィルハーモニー交響楽団に30年もいましたし、さっきのアンサンブルコンテストや吹奏楽コンクールなどは非常に懐かしいと聞いていました。それを全部経験していますし、オーケストレーションのことも全部分かっています。でもやっぱり、何がこの駅西口に必要かと考えた時に、前も申し上げた通り、山形駅西口拠点施設検討有識者懇談会という名前で招集されているわけですから、2つ課題があって、この駅西口には何が必要か、という1つの課題があると思うんです。それと、それじゃトータルすると場所はここで良いのか、この間申し上げたとおり、美術館向かいの県立病院跡地では駄目なのか、という検討をもう一度してほしいというのが本音でありまして、ましてや東口の方であれば、文化という面では、最上義光記念館もありますし、美術館もありますし、当然東門もありますし、そっちの方が非常に文化的なイメージが強くなると思いますし。駅の西側だとすれば、どちらかというとうるさいというか、繁雑というか雑然とした感じの中に県民会館というよりはサッカー施設の方が良いのではないかと思います。

で、提案としては、県と市と、もう一つJRも巻き込んで、オンザビーチじゃないけれども、すぐスタジアムですよというふうにしてしまえば、独立採算制にさせてしまおうとか、それは三セクでさせるとあまり良い結果が出ないので、もう独立採算でしてください、出資はします、というような経営をさせてしまった方がかえって面白いんじゃないかなと私は思います。

#### 【貝山委員長】

他にご発言いただきたいんですけども、いかがでしょうか。もっぱらこっちサイドから、出だしは藤野先生からでしたが。園部委員、よろしくお願いします。

#### 【園部委員】

一回目、二回目参加させていただいて、今の県民会館は正にどうしようもないということだけは明らかになったということ、これは皆さん意見が一致していると思うのです。できるだけ早く新しい文化施設を作る必要があるということも皆さん一致しているところだと思います。私も当初はこの会に参加して、文化施設を作るのだという前提で検討しようということでしたのですが、この前から、古内委員からモンテのサッカー場という話が出て、果たしてどうなるんだろうかと考えてみたのです。今おっしゃったように、美術館の南側に文化施設を作ることは可能かもしれませんが、どういう形になるかはわかりませんが。ただ、駅西にサッカー場を作るということは、それもJ1に相応しいサッカー場を作るということが果たしてできるのかどうか、これにはいろいろな問題が。仮定した図面をニュースで見たことがあるのですが、あれで果たしていけるのかどうかということ、これは建築家の方、専門家の方の判断が必要なんだろうけれども、おそらく、私はいけないのではないかと思います。もちろん広さの問題もありますし、あるいは照明の問題、明るい照明をしますし、それから音声が、果たしてここに作った場合に近隣に対して迷惑にならないだろうかとか、そういうのを含めると、サッカー場をここに作るということが果たして良いことなのかどうかということ、私は非常に疑問を持っている。

ですからそういう意味では、専門家の方に、サッカー場にした場合どうなるんだろう



とか、駐車場も含めて少しご意見をいただいたらどうかという感じがします。

それから、以前古内さんから、たとえばそういうものを作って、中に大きなコンサートを呼べるということ、それは確かにそういうことはできるんでしょうけれども、ただ、AKB48とかEXILEとか、そういうところまで呼ぶということは、おそらく山形ではこれからもおそらく出来ないんじゃないかと。もちろん仙台とか大きな都市で優先的にやられますし、もし呼んだとしても、それは非常に稀なことになるんだろうと。ですから、コンスタントに人が集まるような、まして商店街と似合うことを考えれば、やはり文化施設を作って、その中でいろいろなことを日常的にやることによって人を呼んだ方が、街の活性化につながるのではないかと私は思います。ですから、その辺建築家の方のご意見を伺えればと思うのですが。

#### 【貝山委員長】

三辻先生も建築のご専門ですよ。いかがでしょうか。

#### 【三辻委員】

私は建築と言ってもどちらかというと構造が専門なのですが、そういう立場で整理して建築の話をしていただきますと、私も個人的には現有施設をうまく活かした方が良く思っております。先ほどからお話が出ておりますけれども、テルサと霞城公園を含めて、どういう位置づけで県民会館を作るとか、県の方には、現在のテルサの機能と、霞城セントラルの持っている機能を、一旦あぶりだして、足りないものを県民会館で補う、あるいはもっと良くしていくためにはどういうものを付加すれば良いか、必要な機能をあぶり出した上で、細かいところ、詳細を詰めていった方が、具体的なイメージができるのではないかと考えています。

人を呼ぶという話が先ほどから出ておりますけれども、それにつきましては、個人的な考え方ですが、普段からどれ位人が来て施設の活動が活発になるか、というのだとすれば、どちらかというと東北から人を呼ぶというよりは、地元の方が普段使われるような機能がないといけないだろうと。そういう意味では今日の伊東委員からの資料にある「さくらホール」のような形、加えて、私ずっと前回からお話を聞いていてイメージしていたのは、仙台のメディアテークなのですが、音楽ホールではないので、音楽のホールプラスアルファの機能でどんなものを付け加えれば日常的に人が使えるような活動度の高い施設になるのかということだとすれば、やっぱりメディアテークでやっているような、ちょっとした会議が出来るとか、ちょっとしたサークル活動のようなものが出来るとか、高校生が帰りにふらっと寄って勉強していけるとか、あるいは駅でちょっと時間が出来ました、暇つぶしにどこか行きたいと思って山形駅前を見渡した時に、じゃあ県民会館の1階の、ホールというかちょっとした施設で30分くらい時間をつぶしていこうと思えるような機能を持たせれば、日常的な活動が活発になりつつ、コンサート開く時には大勢の人がやってくるというような仕組みになるんじゃないかなと思っています。ちょっと話がずれたかもしれませんが、個人的にはそう思っております。

#### 【貝山委員長】

それでは伊藤委員いかがでしょうか。

#### 【伊藤委員（伊藤委員代理）】

伊藤でございます。1回目と今回、代理ということなんですが、一言だけ感じていることをお話させていただきます。まず私も、ここは当初から文化施設という考えを持っ

ていましたので、その観点でずっと考えていました。今まで、貝山先生、三辻先生の方から話があったように、文化会館1つでは意味がない。当然テルサと霞城セントラルと文化会館、そしてそこに駅、この4つを如何につなげると言いますか、全体的にした建物というふうな位置付けにしまして、各々建物の特徴を使いまして、そこに足りないものを文化会館の方に持っていくと。で、山形ですので、今日も皆さん車を置いて、天気が良くて歩いて来たと思いますが、季節の悪い時はその4つの建物を歩くというのはやりたくなくなると思います。ですから、デッキとかフォローのついたものでつなげてやれば、あっちに何かあるんだなど、じゃああっちにも行ってみようか、そんな雰囲気になるようなつながりがあったらいいと思っております。

1回目の時に、私と隣の大泉は、建築士会の方で全国大会というものを2009年にやって、大規模なホール、会館がなくて大変苦労したという話をさせていただいたのですが、全国の、山形規模の24~25万人の都市に行きますと、結構2,000人規模の大小ホールとか、そういう建物を持っている都市はたくさんあります。ですけれども、そこで全部やれるというところは意外と少ない。隣に体育館があったり、施設一体で何千人と来た人がいろんな会議をやったり、イベントをやったりとそういう仕組みになっているところが、最近行かせてもらったところではありましたので、山形もそんな感じになればいいと。

もう一つ、サッカー場という話もあるのですが、私は、霞城公園の中の整備、これを是非明確にして早く進め、ただの広場、芝生だけあっても霞城公園が有効なものとはならないような気がするのです。逆にあそこにある建物を今外へ出してますけれども、仮に博物館を外にやるのだったら、先ほど出てきました、県中央病院跡の一角に持つてくるのが一番ベストだと思いますし、霞城公園の中にサッカー場があれば、四方から全部入り口がありますので、歩いても入れるし、そういうのは公園ですからやらないのだというふうに位置づけられていけばまずいのですけれども、私はあそこに行くのがベストなのではないかと。霞城公園と言いますか、天守閣がある城でもございませぬので、おそらくそんな城としての建物は出てこないかなと思っております。ちょっととりとめもない話ですけれどもこんなふうに感じているところでございます。

#### 【貝山委員長】

それではお名前が出たので大泉委員。あとは順番にお願いいたします。

#### 【大泉委員】

私も建築士として仕事をしているわけですが、個人的な意見も入れながらという形にはなりますが、文化施設のスペース的なものとして考えた場合に、時代のニーズに合わせて増設を検討するのに、余裕がなく、何も増やせないというぎりぎりの計画になるのではなく、ゆとりのあるものにしていけたら良いと考えます。

その施設に合った駐車スペースを考えた場合においても、いろんなところに駐車をして100円バスを利用するというのも一つかもしれませんが、健常者でさえも天候の悪い時とかは特に不便ですし、忙しい時などはぎりぎりの時間で出向くということもあり、いくらでも近くに車を停めたいというような状況になりますので、近くにそれなりの駐車スペースがないと不便かなと感じます。

また、テルサのホールに隣接して大小のホールがあることによって、関連して使用できるというメリットがあり、大きな興行が呼べる利点につながるのではないのでしょうか。セントラルではギャラリーを共有し、テルサとはホールのところで共有できるような施設であったら素晴らしいと思います。

それから、広報的にコマースに出るようなものであれば、皆さんに周知されるの

ですが、ピアノリサイタルやあるいは必ずしもそれほど有名でない方でもいろんな賞を受賞されている方などがテルサではコンサート等行っているんですけども、その広報がテレビでは出ないことが多いので、そういった公演の案内が張り出されている場所がそれぞれにあることによって、子どもたち、学生、歩行者の目に触れやすく、公演の情報がわかり、こんなものを行っているんだという知識にもなりますし、公演を感じてもらえただけでもいいと思います。

また、我が家のことになりますが、私がピアノリサイタルなどが好きで、行きたいなと思っても、子ども達が小さい頃「えーそんなところに行きたくない」と言うものですから、「じゃああなたたちは映画館でその間映画を見てて」、といった形でしたが、成長と共に自分達もピアノリサイタルに行ってみたいというようになりました。家族みんなで行って、近くの場所で時間を共有することによって、子ども達は、お母さんはこんなところに行ったんだという感覚から、自分もそれに触れてみたいという、身近なものに変わっていったというようなことがありました。すなわち、そういう施設が隣接してあるというのはすごく良いことなのではないかと感じています。こういったことから、文化施設の建設場所が駅の反対側になると関連が薄くなってしまうのではと思います。

それから、山形市内の子はいろんなところで勉強が出来ると思うのですが、JRとかバスを利用して、山形に来て、夏休み等勉強するという時に、駅のすぐ近くにそういったスペースがあるというのはすごく有難いかなということもありますので、多目的なところも多方面に渡ってあった方が良くと思います。

先ほどちょっと、建物が変わっているとそれに興味を持って人が集まってくるのではないかというお話があったのですが、どんなものと言われるとわからないのですが、現在、これだけ景色の眺めが良いセントラルがあり、近隣に文化施設が建設された時に、上階からこんなものが眺められるので是非見てくださいというような、季節の花や、建物上部に季節の変化がわかるものなど、何か素晴らしいものがあると楽しいと思います。そういったものがあるということについて、本間先生はいかが考えますでしょうか。

#### 【貝山委員長】

うまくつないでいただきました。本間先生よろしくお願いします。

#### 【本間委員】

私は基本設計に関わっていたものですから、今日の会はずっと聞き役で通していきたいと思っておりました。ただちょっと気になる発言もありましたので、反論するわけではないのですが、設計者の考えということで聞いてください。

基本設計では、あの敷地の中だけで勝負するのではなく、山形の中心市街地の回遊性を意識したものにしようと考えました。ですから文化施設の玄関は山形城址・霞城公園を向いています。歴史公園として整備が進められております霞城公園を経て、美術館、最上義光歴史館、そして山形旧県庁舎・文翔館へ、さらに七日町・十日町沿いの歴史的資源を縫って山形駅へとつながる輪の中で、文化施設はそのための基地の一つになるべきものだということから構想しました。

前回もお話ししましたが、山形駅のホームから見ると、「どこの国かな、この街は？」と疑問を感じるようなマンションやホテルばかりで、山形らしさを感じさせるものは見えません。先ほども目を惹くようなユニークな建物をというお話もありましたが、それは山形のものじゃありません。舞い降りる建築と立ち上がる建築と二つあると考えますと、やはり土着性を持って立ち上がる建築であることが大切であり、一時の流行や驕りで舞い降りるような建築はつくるべきではないと思います。50年も100年も時間

に耐えうる建築とはどういうものかと、県民みんなで考えれば、山形で長くもっている建築がどういうものか、自ずと答えが出てくると思うのです。

山形を歴史的に見れば、江戸文化と上方文化の接点にあるとも言われます。上方から舟で入ってきた文化、江戸から陸路を通して入ってきた文化。全国一残っていると言われる蔵座敷はそのひとつの形でもあります。ですから文化会館は、山形に是非あってほしいという気持ちを込めたものであってほしいと思います。

前回の会議で、テルサを壊すこともとの意見もありましたが、テルサも一生懸命作ったわけで、そんなに寿命がなかった建物だったと将来思われたら、実に情けない。テルサがあることで山響も元気になった。山響のために作られたわけではなかったのですが、良い音楽ホールとして、山響はよく活用されています。

霞城公園は、山形市が市制 110 周年記念事業として城の一部を作ろうとしています。重文指定の木造の旧済生館病院、いわゆる三層楼もその中に移築されています。そういうものも併せながら山形美術館の前という案も考えられないわけではありませんが、県民が県のどこから来ても、先ず駅に着いて回遊するためにも、やはりテルサや霞城セントラルと有機的につながった核がつくられるべきだと思います。

先ほど、子育て支援センターが中にあればとの発言もありました。さらにいろいろなサークル活動のできるメディアテークのようなものと。そういうものが内包されても、施設の中だけで全て満足させるのではなく、山形市の中心市街地に向かって回遊性を出せるような、もっともっと県民・市民に開かれた考え方であったほうが良いのではと考えます。

#### 【貝山委員長】

伊東委員、いかがでしょうか。

#### 【伊東委員】

昨日東京では歌舞伎座が開業しました。新しい歌舞伎座がスタートします。東京のまちづくりを考えるとですね、「大丸有」というエリアがある。大は大手町、丸は丸の内、有は有楽町です。ですから、もともと、東京のエンターテイメントスペースは日比谷映画館だったのですが、それがどんどん広がって、丸の内もオフィス街から土日人も人が集まるような施設、ゴールデンウィークにはあそこ周辺で大音楽祭をやったり、大手町は今どんどん建替えていますけれども、日経新聞本社、読売新聞本社、それぞれ専門のコンサートホールを持っているんです。日比谷映画館が大手町まで広がってきているということで、ゾーンとしてはどうでしょうか、山形で考えるとものすごく大きなエリアなんじゃないかと思うんですね。地方の人は、ゾーンが非常に小さいなあと思うんですが、回遊性ということを見ると、もっともっとエリア、広いゾーンでイメージした方がいいんじゃないかと今のお話を伺って感じました。

それともう一つ、今年度は懇談会ということで皆様からいろいろ貴重なご意見をいただいているわけですが、来年度、これをまとめていく段階になるわけです。その時に、私は 30 年ずっと劇場建築を作ってきましたが、気になるのは建物のことではなくて、むしろソフトのこと、管理運営のことなんです。うまく運営をしようと思うと、建設コストの 1/10 くらい毎年かけなさいと言うんですね。100 億の建物作ったら毎年 10 億円かかる、10 年間でイニシャルコスト分はかかってしまうわけです。それぐらいの覚悟がないと良い建物は運営できないというふうになると思うんです。ですから、建物に無理にいろんなことを考える必要はなくて、むしろただの箱でも良いくらいなんですよね。魅力的な箱を作れば、あとは使う人が自由に発想して使っていつてくれるものかなと思うんです。我々が学生の頃習ったのは、機能主義というやつで、空間にはそれぞれ目的

があつて、その目的に合わせて空間を作れと教わりましたが、今逆になってきていて、面白い空間があればそこを自由に使うと、そうすることによって創造性が生まれて、新しい空間がどんどん出来てくるんですね。というふうに発想していかないと、今回の施設というのでも 21 世紀型の建物になっていかない。そのためには、来年度になると思いますが、管理運営計画、これをきちんと作る必要がある。管理運営計画は、通常はまずコンセプト、この施設をどうしてもっていくかというコンセプトから入っていくと。これが揺らいではいけない。そのコンセプトに従ってソフト面ハード面がある。ソフト面でいきますとまさに事業だと思ふんですね。どんな事業をここでやるのかというのが決まってくれば、組織もおのずとわかってきますし、事業と組織が決まれば、経費も決まって、年間大体どの位になるのか、ということが芋づる式に見えてきて、決まってくると思ふんです。ですから、本日いただいたご意見は、コンセプトに関わるのところもあるし、具体的な施設、具体的な事業に関わる意見もたくさんございますので、それをきちっと整理することをやって、いよいよ設計に入っていくのかなど。どうしても建設工事の方が時間がかかるものですから、そういったものは後でいいやと思いがちですけれども、本来、ソフトあってこそハードですので、そここのところの進め方ですね、プロセスをこれからきちんと県の方で考えていただいて、やっぱり、一般の人の話題づくりから言うと、箱を作るのってどうしても否定的に見られると思ふんです。何で財政が厳しいのにこんなすごいお金かけるのかと。でも逆にソフトを作っていく、こういう事業をおこしていく、ということはむしろウエットなことなんですね。ですから、まずその事業を先に前面に押し出すような形にして事業を進めていかれるといいのではないかと思います。

#### 【貝山委員長】

先ほど金委員から、建物についても山形らしさと言うか、誘引さを出してほしいとありましたが、もう一つ、運営面ですよ、マネジメントの方でも、やっぱりそういう独自性と言うのか、何でもかんでも山形らしさとひっくるめて言っちゃっているんだけれども、もうちょっと踏み込んだ良いご発言をされたと思ふんですけれども、やっぱりそういうコンテンツと、それからマネジメントですね、それは箱と一体となって生きていくんだということですから、建物を作ることに汲々とするのも仕方のないことなんだけれども、どういうことをやっていくのか、そういう仕掛けも併せて今から考えていかないと、伊東委員がおっしゃるとおり、遅いのかもかもしれませんね。大谷さん、よろしくお願いします。

#### 【大谷委員】

前回サッカーの話が出てきて、私はきょとんといたしました。というのは、この駅西口拠点施設という言葉は、平成元年から使われてきているんですね。これは県の方が使い始めたと言いますか、それで県民の中に使われてきたわけですが、ですから今回の、駅西に文化施設を作るというのにはもう四半世紀近い時間がかかっている。その経過を皆さん知らないのは当たり前なんですけれども、私たちにすれば、ここに文化施設を作るのは悲願なのです。前々から芸術文化活動を県内でしている私たちの仲間が願ってやまない。県はそれをちゃんと受け止めていただいて、平成元年から、皆さんのところに県民文化課が作った資料が渡されていますので、見ていただければわかりますけれども、一貫して県はぶれていないんです。ここに文化施設を、拠点施設を作りましょうと。基本計画から含めてずっとその考え方をもちまして実施しようとしてくれております。しかし現実、今もって出来ない。2回、私たちからすると痛恨の極みのことがあった。一つは、平成 17 年に着工目指して動きます、というところまで行って、延期になった。それか

ら、平成17年に知事が、ハコモノは駄目、ストップですと一刀両断に切られて、止まってしまった。で、今回再びこの問題について県が取り上げ、新聞等で読ませてもらって、感激しているわけですが、知事にはっきりとこの駅西は文化施設を作る場所として考えていますとおっしゃっていただいて、今度こそ実現するんだと、やっとなんか、という思いであります。ですから、県の方は、皆さんの意見をいろいろお聞きしたいと言う中に、長い間県民の願いがどういうものかを多くの方々の意見を聞きながらまとめてきたものに則って進めてきている、そういう路線の上で今日があるんだと。ところがこの前、サッカー場の話の中で盛んに経済効果という言葉を使いながらお話を聞いたのを見て、それは1つの立派な考え方だと思います。でも、その後、皆さんのお手元にまとめたものがあるので分かると思いますけれども、委員長が、こういうことをおっしゃっています。経済効果というものは、駅前と周りの商店街にとどまるのでは県の施設を作る意味がないと。県全体に波及していくからこそ県の施設なのですよ。その意味で、奥田さんのお話などについて、農業、農家の方までこの効果が浸透していけば、県全体まで行くわけです、と委員長がまとめています。私はこの言葉に尽きると思うのですが、私たちが芸術文化活動をするのは経済効果を求めているわけではありません。やむにやまれず自分達が創作、心の中に湧き出てきたものを表現しようと、一生懸命それぞれ取り組んでいる。したがって今回私たち芸文側としては、今回の経過を逐一報告しながら、委員会で話し合っていて、その意見に基づいて私も喋っているわけですが、この施設の基本的なコンセプトは発表する場で、自分の心を外に出すエリアと私たちはとらえています。それは、ホールという形態もあるし、展示という形もあるし、いろいろ活動の内容であるわけですが、しかし、何としても、県の方で一歩踏み込んで、作っていきましょう、とおっしゃっていただいたことに対して、私たちは敬意を表すとともに、賛同し、今後とも皆さんの意見を踏まえながら、一日も早く実現し、そして山形の子どもたちが、次の世代を健全にきちんと背負って、良い山形だと、私の育ってきたところを誇りにしたいと、そういう芸術文化エリアにしていく環境を一緒に作っていきたいと思っております。そういう意味で、サッカーについては、まず天童と話し合いをしていただきたい。で、方向付けをしていただいて、1万人以上も集める場所をここに作ってみて、誰が考えてみても、駐車場はどうするんですか、あるいは、試合をする場所には必ずサブのサッカー練習場がある、あるいはトレーニングセンターがある、そういう条件が整っていないところにどうして公のものが来ますか。そういう諸条件を見たときに、あまりにも唐突であり、考え方として経済効果という言葉が使われたのを見て残念だと思ってみたりもしましたが、そのことはともかく、今日皆さんのご意見を聞いて、ここに文化施設を作っていこう、そのために知恵を出し合ひましょう、と今日の話聞いて私はほっとしております。これからも、是非実現するよう皆さんに頑張りたいと思うし、県の方にもお願いしたいと思っております。

#### 【貝山委員長】

あとお二方ご発言を伺っていないので、野口委員、齋藤委員という順番でよろしくお願ひします。

#### 【野口委員】

私は子育て支援の活動をしているNPOですけれども、今力強いご発言があったわけですが、私どもが活動している場所は、七日町の中心市街地の中にあります。そこで普段、中心市街地のことを考えている方々と接する機会が非常に多いのですが、今回こういう話題が出てきた原因というのが、まちなかをどうにかして活性化していきたい、ということが根本なのではないかと思っております。経済効果ということもそうなんですけれ

ども、山形の中心部に何が必要なのか。先ほど来皆さんからもあったように、山形駅から文翔館、霞城公園といったいろいろな社会資源をどう配置をしていくことで、この街を、町全体を活性化していくのか、ということが根本にあると思います。

サッカー場は、その一つの考えとっておきまして、ここにどういうものを配置するのか、サッカー場もまちなかに欲しいんだという意味合いと私は考えているところでした。私自身としましては、駅西のこの場所は、やはり文化の拠点がいいのではないかと考えるのですけれども、この中心街のことを考えている人たちにとっては、この場所を大事に考えていらっしゃる、議論にも参加をしていきたいとっと思っらっしゃるということは、今回のいろいろなことでわかったのではないかとっと思っています。

ですので、活発な意見が出てきたことは、本当に良かったんじゃないかなと思います。それを踏まえて、実際に文化施設ということを考えてときに、是非サッカー場に負けない、賑わいのある、人が集まってくるような施設を考えなくてはいけないとっと思っています。ですので、先ほど来皆様がおっしやってきたような、発表の場というハレの場もあるわけですが、日常に使えるケの場とっいますか、多世代が集える文化複合施設のような形で是非知恵を絞って、経済効果も充分にあるようなものを提案してっいたらいいのではないかとっと思っています。

ちょっともう少し議論を広げさせていただきたいのですけれども、是非そういった場合に、少子化社会に対応するもの、そして高齢者の方が増えていくということに対して、公共交通機関が便利な場所でございますので、子育て支援の部分ですとか、高齢者に配慮した施設というのをも考えてっいていただきたいとっ思います。

前回に博物館の機能ということも申し上げたのですけれども、実は、ハコモノがあれば中身として入れたらいいんじゃないかというものがたくさんあるとっ思うのです。山形の宝物ということではたくさんあるとっ思っまして、博物館ということ言えば、縄文の女神が出たわけなのですが、今現在の博物館の展示のスペースではなかなかそれを活かすようなものになっていないんじゃないかと思っと思っています。そういった山形の宝物を集めてきて、是非駅西のこの分かりやすい場所で他県の方にもPRできるような場所で発表してっければいいんじゃないかと思っいます。

#### 【貝山委員長】

最後になりますが、齋藤委員、よろしくおっ願いします。

#### 【齋藤委員（奥田委員代理）】

奥田が出られないために、代理で参加させていただきました。私の場合是一回目に来させてっいただいて、前回の資料でっいろいろなご意見が出たのを拝見しました。その中で、今回は懇談会ですので、次回からコンセプトであつたり、いろいろ実務的な話も出てくるということですので、前回も奥田らしさが出た話だつたと思っいますが、

#### 【貝山委員長】

楽しい話をたくさんいただきました。

#### 【齋藤委員（奥田委員代理）】

その中で、言いたいことというのは、全体が文化施設だけじゃなく、周りの施設との、共和であつたり、共存であつたり、共に生きていかないとどうにもならないわけですし、県民会館は県の大きな施設というのであれば、県全体の、特に私たちは一山越えてくるものですから、そういったときに内陸とは距離感があつたりして、違ふと思っのですが、でも心は一つなわけですから、そこはみんな簡単に来られるし、来やすいし、行ってみ

たいし、というような、そういった施設を目指していかないと、それが私は基本だと思うので、具体的にこれをこれからまた皆さんで協議する中で、そういったことを具体的に、どうやったらみんなが県民全体が参加できるのか、というのをもっと詰めていきたい。ただ今回までは、皆さんの意見ということいろいろ出ているので、良い意見が一杯あると思うので、早くまとめていければいいかと思います。

#### 【貝山委員長】

はい、ありがとうございます。

#### 【古内委員】

すみません。最後のあがきで一言だけしゃべらせてもらいますけれども、先ほど大谷委員からもありましたように、天童に任せればいいんじゃないかということでしたが、天童はあくまでも陸上競技場であって、J 1の施設としては全然なっていないで、J 1の本部の方からは、特例で認めたという状況にあるのです。ですから、今回J 1に上がったとしたならば、完全にホームグラウンドはなくなります。使えなくなると思います。ですからこの機会にちょうどそこに土地が空いている、県が建てたいというこの機会にホームグラウンドを作らないとJ 1に上がったところであんなところは認められないような会場になってしまうというのが一つあります。

それから天童の場合ですと、高掬駅から会場までは歩いて45分かかるんです。歩かなきゃならない。それから帰りに勝った負けたで、じゃ飲みたいなど、でも飲むところがないんです。おみやげ買いたいな、おみやげを買うところがないんです。そういうところに人は集まって来ないので、中心部に来れば泊まる場所もある、飲む場所もある、おみやげを買う場所もある、というところで経済効果が非常に高くなるだろうということを申し上げていました。

それから、J 1の方はそれでいいんですけれども、先ほどおっしゃったように、経済効果ばかりおっしゃっていると言うのですが、実は経済効果という名前を変えれば、採算性と変えてもらうといいのですけれども、一等地に県民会館が出来た時に、果たしてどれだけの採算性が合うのかということを考えてもらわないと、おんぶにだっこで県からこれだけの予算が足りなくなりました、金くださいと。貧乏県なわけですから、いつまでも出るわけがないので、そこで独立採算で、それこそ皆さんが利用者負担みたいな形で経営してもらった方が私はいいと思います。でなければ、こんな一等地でどれだけの経費がかかる、伊東委員が先ほどおっしゃったように、とんでもない経費をかけなければ、良い設備はできないし良い運営はできません。その分たかだか数千円、数万円払っておれたちは、というんじゃなくて、この県民会館全体を私たちが運営するんだというつもりになって、独立採算制なんだ、ということぐらいまで頭の中に入れてもらって利用者負担を多めに出してもらわない限り、この施設はいつまでたっても良くはならないと思います。申し訳ございませんが。

それから、私はここ駅西地区の地元の間人でありまして、先ほどから文化関係の方が待たされたとか言いますが、我々地元の間人が一番待たされております、平成2年なんです、この計画が立ち上がったのは。で平成5年に実行に入ったんです。山形駅西地区土地区画整理事業ということで始まったんです。そのときには、テルサと、ここのビルと、県民会館は建たなくてはならないはずだったんです。ところがそれはいつまで経っても建たない。それで、地元にお客さんが来なくなった、その分責任とってくれと言いたいくらいに地元の商店街は大きな打撃を受けていることも考慮の中に入れてほしいです。言いたいことはもっとあるんだけどそんなところで、すみません。最後のあがきです。



J1、モンテディオ、本当に全天候型の施設がそこに来れば、もっともっと採算性も合うし、経済効果も上がるし、人も動くし賑わいもあるということが、それから、先ほどおっしゃられた第二グラウンドもちゃんと頭にありますから。あかねヶ丘の県のグラウンド、あそこを使わせてもらうこともできるし、駐車場は、水道部の隣の田んぼをつぶせばできます。それくらいのことは皆さん考えてますよ。意見を出している人たちは、山形市長だって、この間県知事にそれを要望しましたし、商店街の人間も要望書を出しています。テレビじゃないですけど、「今でしょ」という言葉があるとおり、やらなければならないのは今なんです。大変失礼ですが、20年も前の話をそのままずるずるずる引っ張ってきて、山形の人って何でこんなに保守的で、考え方が古いのかと。私これで2回目なんです。土地区画整理事業の時も、正直な話私はここに商業集積してくれというふうに申し上げたんです。で、東京から300万円かけてコンサルタント呼んできて、点在している私たちの商店街を1ヶ所にまとめてもらって、あの時、スペイン語でパティオというのがあって、そのパティオのようなもので、中に植物とか公園があって、そこを商店街が囲んで、その周りに駐車場があってと。商店街が、賑わいのあるまちづくりができるんだと、そういうパティオというものを作ってくれというようなことを言ったときに、山形市はそれを認めてくれなかったのです。その時のコンサルタントの先生が何を言ったかという、山形は遅れている、保守的だ、こんな街みたことない、そこまで言っていたんです。東京のコンサルタントの先生が。ところが大変失礼ですけど、今現在も20年前の計画をそのままずるずる引きずってまたやろうと考えていること自体が山形って保守的だと思います。もっともっと改革的なことをやらしてもらわないと、今やらなければならないことは何か、県民が何を望んでいるんだ、それをしっかり頭の中に入れて事業計画をおこしてほしいと私は思います。

#### 【貝山委員長】

お城の中は、今後どういうふうに整備をしていく、市か県か分からないのですが、それはどうなんですか。たとえば体育館あります、博物館もあります、野球場もあります。ああいうものは今後ずっと残っていくのか、それとも別の整備の仕方を今考えているのか、教えてください。

#### 【事務局】

霞城公園の整備は全て市でやっております。県はその土地を借りて建物を置いているわけでありまして、いつまで置かせていただけるかと、そういう議論であります。博物館も当面はまだあそこにおける、あるいは置いてあるわけですが、体育館もそうですけれども、全体のプランは市の方から示されることが前提になります。

#### 【貝山委員長】

野球場は動かさなくちゃならないと聞いたことがあるのですが、そこはどうなんですか。

#### 【事務局】

これも市の話なので私も新聞記事でしかわかりませんが、野球場は別にお建てになると市長さんが議会で話していると承知しております。

#### 【貝山委員長】

先ほど私申し上げましたけれども、本間委員の方から、回遊性をもうちょっと広くルートどりをして、文翔館あたりまで足を伸ばしてぐるっと回る、そういう回遊性だと思

いますけれども、お城の中を人に通ってもらうということは、私は大切なことなんだろうと思うんです。うちの学生は卒業式、入学式で体育館を利用させてもらっているのですが、後は花見のときに行きますけれども、あそこは大変良い公園ですよ。ただ、ちょっと見ていると、違和感を感じるのはあの体育館であり、博物館なんです。ですからあれも大分老朽化しているので、どこかにまた作らなくちゃいけないんだと思うんですけれども、あそこらへんを、この中核施設を起点として、ぐるっと回遊ができて、また駅に戻る、そういうコンセプトでやっていただければと思っています。

#### 【事務局】

県の施設2つ、体育館と博物館ですけれども、体育館については総合運動公園に既に代替施設を作っているという考え方があります。これは教育委員会の話ではっきり私としては申し上げられないのですが、博物館についてはまだ市の計画上は、相当期間あそこに存置できるということでありまして、今回の計画の中身に従って我々としては考えていないということでもあります。

#### 【貝山委員長】

先ほど、まちづくり、活性化という話もあって、当然山形市の中心市街地の活性化に資するものだろうと思いますけれども、県がやる場合に、当然県と市が、連携をとって一体的な整備をしてもらわないと困るのですけれども、ただ、先ほど大谷委員から発言がありました、要するに県の施設は県民に効果が波及しないと意味がないのですと、確かに前回そういう話をいたしました。もし山形市の市民だけに利用が及ぶ、便益が及ぶんだったら、県が建てる必要はない。山形市が自分の予算でやればいい。そうすると、あそこに文化機能を持った施設、あるいはスポーツ施設を作るにしたって、全県に及ぶようなそういうものでなければいけないので、私はそういう意味で申し上げたわけです。

ですから、県と市の連携、それは当然とっていただいた上で、どうやったら県民全体にこの効果が及んでいくのか、あるいは利用いただけるのか、という観点は必ずはずさないようにしていただきたいというのが私の発言の意図なのです。

私は経済学が専門ですから、経済効果というのはたぶん私が最初にこの懇談会で使ったかと思います。ただ、経済効果というのは、金銭的に測れる効果と、金銭的に測れない効果があります。たとえば子供を育てるといふ、芸術文化活動を通して子どもを育てるといふのは、これはお金の換算できません。けどものすごく重要な効果であるということ誰でもわかるはずなので、そういうものも含めて経済効果という意味で、必ずしも儲けた儲けないとそういう限定的な話ではないということだけご理解いただきたいと思っています。

場合によっては、便益という言葉、ベネフィットという言葉を使います。ベネフィットというと、非金銭的なことも含めて言います。そうでないとですね、いろんな施設というのは確かに金銭面でどれくらい利益があるのかと見ていくと、ほとんど公共施設というのは採算は取れない。けどこれは長期の投資だと、教育というのはそうした意味で長期の投資だと思ふのですが、そういうことを考えますと、むしろ採算性というのはあまり大きな問題ではなくなるかもしれません。

ただ、サッカースタジアムを作った場合には、これは採算をとらないといけないので、実際に、もし採算がとれるとなったら県とか市がやらなくてもいいんです。民間業者がお金を集めて、それで商売しようじゃないかと。正式な名前わかりませんが、本来ならサッカー協会が、大口の投資家になって、あとは足りない分を地元から集めて、それでやろうじゃないかという、本来そういうものじゃないですか。野球場とかサッカー場とか、子どもたちにも、全天候型の、国際試合で通用するようなサッカー場でゲー

ムをさせたいというのはわからないではないですけども、ちょっと違うんじゃないかと僕は思います。だから、公的な色彩が強ければ強いほど、県とか市が関わっていかなくちゃいけない。どうしても不足するところを、補助をするようなことになりますけどもやっていかなくちゃいけないんだろうと思います。

野口委員の発言が今日のすべてのまとめになった印象を持っていますので、あえて私のほうから三回目のまとめということはやりません。野口委員のご発言が大体今日の懇談会のまとめになるんじゃないかと思っています。古内委員のご意見もご意見として、当然ありますから、これは否定するものではありませんが、このサッカースタジアムの問題はまた別なところでご議論いただく、その必要性は県民は当然感じているだろうと思いますが、それをどういう場で実現していくのかというのは、県の方で、今後よろしくご検討頂ければと思います。

あとはご発言ございませんですか。なければ、皆さんからのご意見をすべていただいたということで、そろそろ閉じたいと思います。皆さんの意見を踏まえまして、来年度前半に施設の仕様案を作成するということです。皆さんには来年度後半に、予定では2回、二度にわたりその案をたたき台にしてご議論いただくと聞いております。本日の議事は以上で終了いたしました。事務局にお返しいたします。

#### 【事務局】

それでは議事につきましては、以上で終了といたします。ここで知事からお礼の挨拶がございます。

#### 【知事】

皆様今日は熱心にご議論を賜りまして誠にありがとうございました。貴重なご意見をたくさん賜ったと思っております。いろいろなお考えもございましょうけれども、もともと文化的な拠点施設ということで、県が取得していた用地でございまして、ただ、本当にいろいろなご意見を頂戴した、そのことをしっかりと踏まえで進めていかなくてはならないと、今日しみじみと実感した次第でございます。いろいろなことはございますけれども、今、持ち上がっているのがサッカースタジアムでございまして、連日、山形市長が提言にいらしたり、また天童市長をはじめ30名以上の方がいらしたりですね、そしてまた山形市の商店街の皆さんがどっといらっしゃったり、盛り上がっている状況です。この話題とちょっと離れますけれど、私が感じておりますのは、活性化しているということでございまして、私は大変良いことだと思っております。それをどういうふうに進めていくか、いろいろ課題があるところでございますけれども、Jリーグのいろいろな動向もございますので、それを注視しながら、スポーツ21世紀協会もございしますので、県民の皆様によく見える形でオープンに議論しながらしっかりと進めていくべきではないかと思っております。そのようにいつもお答えしているところでございます。本当にものすごく盛り上がってしまっていて、スポーツというのはものすごい力を持っているということでもあります。ですから、こっちにきてけろきてけろ、いかねでけろいかねでけろ、綱引き状態でありますけれども、県内全体でもっといろんなことを感じている方もいらっしゃると思っております。それだけでも力のある、底力のあるのがスポーツであります。県全体が盛り上がるようなそういう方向で、元気を出していけるような方向で、私は進んでいってほしいというか行きたい、まだこれから始まることですので、いろいろなご意見を頂戴しながら進めていければいいのではないかと、私は決して否定的なほうではありません。

ただ、ここに関しましては、非常に質の高い芸術、文化、そういったものになかなか

接することができなくなったというような、県民の皆様に変な寂しい思いを最近ずっとさせているのではないかという思いも持っておりまして、素晴らしい芸術を子どもたちをはじめ、県民のみなさん、お年の方にまで、幅広く楽しんで、心が豊かになってそして幸せに暮らしていく原動力といいますか、力をいただくような、そういう施設は大事だろうと思っておりまして、今日いただいたご意見をしっかりと踏まえさせていただきながら、次の基本設計なりに、いろいろな案を出していくということになろうかと思えます。

本当に熱心なご議論をいただいて、心から感謝を申し上げたいと思います。皆様どうもありがとうございました。

**【事務局】**

以上をもちまして本日の有識者懇談会を終了させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。